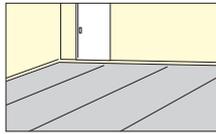


アルク フロアの施工方法とメンテナンス

施工について

1. 下地の点検

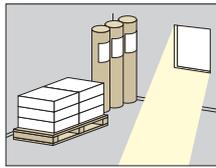
- ① 平滑さ ② 乾燥 ③ 強度 ④ 汚れ を点検します。



2. 割り付け・墨出し

- 施工現場を実測し、割り付け図をもとにして、割り付け、墨出しをします。

⚠水分計で下地の含水率を測定して、8%以下であるか確認してください。



3. 材料保管

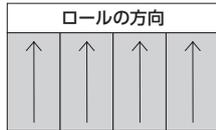
- 材料保管の善し悪しによって仕上がりが左右されます。**ビニル系床材は温度による影響を受けやすいので、特に冬期の保管管理は重要です。**

- ①乾燥した平坦な室内に保管し、直射日光は避けてください。
- ②室内温度10～25℃、湿度75%以下での保管が最適です。
- ③床シートは垂直に立てて保管してください。
- ④床シートの耳の部分がつぶれたり、変形しないように注意してください。



4. 材料確認

- 品番・ロット番号を確認し、同一場所に他のロットのものが混在しないようにしてください。

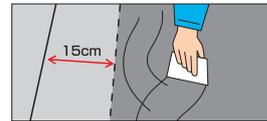


5. 養生

- ロールの方向を確認します。
- 5～10cmの余分を計算に入れて、床シートを粗切りします。
- この状態で、10℃以上に保たれた室内に床シートを少なくとも24時間仮敷きして、室内温度になじませ、巻きグセ、伸縮などを取り除いてください。

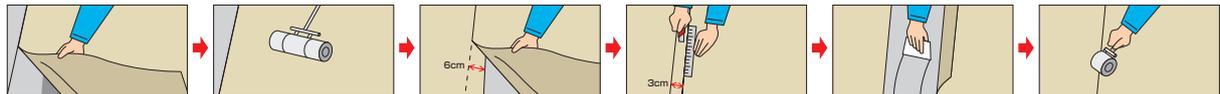
6. 接着剤塗布

- 墨から15cmずつの幅を残して接着剤を塗布します。床シートを重ね切りした後、その部分に接着剤を塗布し圧着します。
- 接着剤はアドバンの専用接着剤を推奨します。
- 使用前に接着剤の容器に記載されている事項をご参照ください。
- 木下地のような通気性の少ない下地は接着剤の溶剤が抜けにくいので、残留溶剤による塩ビタイルの伸びを引き起こし、施工後の突き上げを発生させることがあります。その場合は接着剤の塗布量を標準より少なめにし、オープンタイムを長めにとってください。
- アドバン専用の接着剤以外の接着剤をご使用の際のクレーム等はお受けできません。
- クッションフロアなどの既存床の上に重ねて施工しないでください。
- 施工は専門業者にご依頼ください。
- 下地の含水率が8%以下であることを確認してください。



- 下地の水分指標にかかわらずウレタン樹脂系接着剤をお使いください。

7. 貼り付け・圧着



- ①墨に沿って貼り始め、空気を押し出しながら貼り付けます。

- ②45kg以上のローラーなどで中央から継ぎ目に向かって残った空気を押し出すように圧着します。

- ③継ぎ目は6cm重ねます。
注) ロス分は材料代に含まれておりません。

- ④端から3cmのところに定規をあて、重ね切りします。

- ⑤重ね切りした部分の床シートを持ち上げ、下地に接着剤を塗布し、オープンタイムをとってから貼り付けます。

- ⑥ハンドローラー等で入念に圧着してください。

⚠圧着不足は接着不良につながり、後日突き上げ、剥離などを引き起こす原因になります。

8. 目地処理

[下記のような場所では溶接を行ってください]

- (1)継ぎ目より水が浸入し、剥離の原因となりやすい場所
- (2)衛生的に特に注意を払わなければならない場所 (例: 病院、食堂)
- (3)重歩行用の場所、濡れたものが入りやすい場所 (例: 学校、店舗、公共建物)

アルク フロア溶接棒

¥8,800/本
サイズ: φ 4mm × 50m
重量: 1.2kg/本

- ※熱溶接のため、溶接部分と床材に光沢の差が生じる事があります。
- ※本施工前に、必ずサンプルにて溶接棒の密着度を確認してください。

[溶接方法]

- (1)熱溶接はシート施工24時間経過以降に行なってください。
- (2)U字溝切り器を使い、幅およそ2.5～3mm、深さおよそ1.5mmの溝を切ってください。
- (3)内径5mmのノズルをお使いください。
- (4)ライスター溶接機の温度設定は350～400℃とし、実際に溶接棒が通過するノズル部分の温度がおよそ180℃になるようにしてください。(目安 2M/分)
- (5)シート表面を焦がさないように、また溝の両脇にはみ出さない様上手に溶接棒を溶接してください。
- (6)溶接が済んだら、2度に分けて余盛り部分をトリミングします。
 - a.溶接後、溶接棒がまだ暖かいうちに、三日月ナイフをカッティングプレートに装着し、溶接棒余盛り部を粗切り(1回目のトリミング)します。
 - b.1回目のトリミング終了後、溶接棒余盛り部が少し冷めてから仕上げ(2回目)のトリミングを三日月ナイフのみで行ってください。

施工後の注意事項

- キャスター付きベッドのような重畳物を移動する際は、必ずキャスターのロックを解除した状態で移動させてください。
- 重畳物を移動させる際、無理に動かすと床面に大きな負荷がかかり、床材を破損する恐れがあります。

メンテナンス



- 日常の掃除は、ダストワイパーでホコリや塵を除去してください。
- 部分的な汚れは固く絞ったモップ、雑巾等で水拭きしてください。



- ひどい汚れは中性洗剤などを希釈し、雑巾等で拭き取った後、水拭きします。

⚠注) 洗浄の際、水を大量にまくと目地の間から水が下地にしみ込み、剥離の原因となります。(長尺で溶接工法の場合は問題ありません)

[床材を長持ちさせるために]



- 外部からの土や砂の持ち込みは、床材表面を傷つけて摩擦を早めるなどの原因になります。出入り口にはマット類などの設置が必要です。



- 傘などからの雨水は、目地や継目から水分が浸透し、剥離の原因となります。出入り口にマット類、傘立て等を用意してください。雨水が持ち込まれた時は、直ちに除去するようにしてください。



- ハイヒールや家具など局部荷重を受けると、圧痕が残る可能性がありますので注意してください。



- タイヤのゴムや椅子のキャスターのゴムなどによって、ビニル床材の表面が変色することがありますので、間に保護板を入れてください。